

健保
くみあい

加入者のための ワンポイント解説!

加入者の皆様にわが国の医療制度の課題や健保組合・健保連(健康保険組合連合会)の主張についてわかりやすく解説するものです。

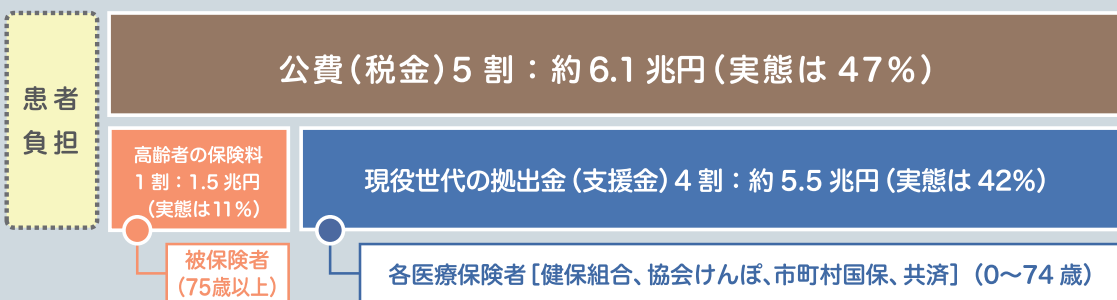
後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者が加入する独立した医療制度で、現役世代が加入する医療保険制度とは別建てとなっています。



後期高齢者は約1,500万人でわが国の人口の約13.8%です。その医療費の規模は、2012年度で約13.1兆円となっています。制度が開始された2008年度当初は、色々な問題が指摘されていましたが、現在は安定した運営が行われています。

その負担の内訳は、国民全体で支えるという考え方から、公費(税金)5割、75歳未満の現役世代(各医療保険者)からの財政支援が4割、そして高齢者自身の保険料が1割を目安とされています。

後期高齢者医療制度の財源構成 2012年度



しかし、制度的には5割のはずの公費が実態は47%となっており、2012年度において3%分は約3,500億円に相当します。また、その医療費のかなりの部分は、私たち現役世代の保険料負担の増につながっています。

健保組合・健保連は、この47%の公費(税金)を、本来の姿である50%に引き上げるよう求めています。